

長野県植物誌改訂 研究史資料 10：水島 正美

中村 千賀*

人物史の資料の連載として、東京都立大学で牧野標本館の主任を務め、長野県内のフロラ調査にもご活躍された水島正美氏（写真 1）を紹介する。

水島 正美 氏 略歴 (1925-1972)

1925（大正 14）年 東京府北多摩郡府中町（現東京都府中市）生まれ

1944（昭和 19）年 北海道帝国大学予科農類卒業、同大農学部水産学科に進む

1946（昭和 21）年 宮部金吾の勧めで東京大学理理学部入学、1949 年植物学科卒業

1954（昭和 29）年 東京大学大学院修了（植物分類学専攻）、資源科学研究所研究員

1958（昭和 33）年 東京都立大学牧野標本館新設に伴い勤務

1960（昭和 35）年 東京都立大学助教授（牧野標本館主任）

1961（昭和 36）年 「邦産ナデシコ科ハコベ亜科の再検」で理学博士を取得

東京薬科大学講師（1956～）、東京大学薬学部・教養学部講師（1963～）、日本植物学会編集幹事・同編集委員、日本植物分類学会幹事、植物研究雑誌編集委員を務める。

1972（昭和 47）年 癌のため死去（47 才）

水島正美氏は、原 寛 氏（1911-1986）の追悼文（1972）によると、大学卒業のころにはすでに、日本、特に北地の植物に精通し、広い知識をもっていたという。氏の研究態度は非常に真面目で、論文を書く時に少しでも疑問点があると、海外から標本を借用して自ら確認し、一編の参考文献をも見逃さない慎重さだったそうである。氏の採集した標本には、生育状態や葉のつや、花の色香などの生時の情報が丹念に書き加えられており、また発表した論文の記載や文献などの一行一行にその注意深さがよく表れているという。

水島氏はナデシコ科植物の分類を専門にし、特にツメクサ属やハコベ属、ワチガイソウ属について詳



写真 1. 水島正美氏（右）と横内斎氏（左）。
提供 横内文人氏

しい研究を発表しているが、他にもスミレ科やキク科など、多数の科にわたって種・変種・品種・雑種を命名・発表している。長野県植物誌 第Ⅱ編 植物研究史（1997）によれば、氏が命名した分類群は県内に合わせて 62 あるという。

以下は主に水島氏の長野県内での活躍について記す。水島氏は京都大学基礎生物学研究所講師の横内斎氏（1895-1980、写真 1）との交流が深く、大学院生であった 1952 年の夏から横内氏とともに木曽教育会が企画した御嶽山での調査に参加している。この調査の中で二人が発見し、水島氏が命名や発表に携わった分類群は下に挙げる 4 種である。学名は Ylist（米倉・梶田 2007-）に倣い、そこに掲載されていない場合は横内斎著「信濃植物誌」（1983）の記載を採用し*を付した（以降も同じ）。1953 年、ミツモリスミレ *Viola* × *pseudomakinoides* M.Mizush. ex T.Shimizu（マキノスミレ×ファイリフモトスミレ）木曽郡開田村三ツ森山、オンタケナナカマド *Sorbus* × *yokouchii* M.Mizush. ex T.Shimizu（タカネナナカマド×ウラジロナナカマド）御岳山山頂付近（標高 2950 m）、タニタデモドキ *Circaea* × *kisoensis* Mizushima*（タニタデ×ミズタマソウ、現在ミズタマタニタデと呼ばれる）木曽郡開田村西野、1954 年、ウラジロフサザクラ *Euptelea*

* 長野市立博物館分館 戸隠地質化石博物館
〒381-4104 長野県長野市戸隠栃原 3400

polyandra Siebold et Zucc. f. *hypoleuca* M.Mizush. et Yokouchi 御嶽飛驒口小坂町落合。

水島氏はこの調査に 1954 年までに 4 回参加し、成果は御嶽駒ヶ嶽総合調査会編の「御嶽研究 自然編」(木曾教育会 1958) に「木曾御嶽高等植物目録」として 60 ページにわたって掲載されている。また、この調査とは別に木曾地域では、1967 年に、木曾郡南木曾町田立で横内氏とともにキソオニツルツゲ(ツルモチ) *Ilex* × *makinoi* Hara var. × *austrokisoensis* Mizushima* (ヒメモチとホソバツルツゲの雑種、長野県植物誌 (1997) では *Ilex leucoclada* (Maxim.) Makino × *I. rugosa* F. Schmidt var. *stenophylla* (Koidz) Sugim.) を発見し、スルガジョウロウホトトギス *Tricyrtis ishiana* (Kitag. et T.Koyama) Ohwi et Okuyama var. *surugensis* T.Yamaz. を県内初認している。

また、水島氏は下水内教育会主催の生物調査(植物班)の講師として横内氏とともに招かれている。水島氏が参加したのは 1953 年 8 月と翌年 5 月に行われた、栄村の野々海や飯山市の斑尾山、茶屋池、富倉などでの調査である。この 1953 年の調査の際に、飯山市斑尾山麓において水島氏と横内氏によって、オクノサワフタギ *Symplocos chinensis* (Lour.) Druce var. *terrae-nivosae* M.Mizush. とメウスユキハナヒリノキ *Eubotryoides grayana* Hara var. *pruinosa* Hara f. *psilocarpa* Hara* (ウスユキハナヒリノキの子房に毛のない品種) が発見されている。

この調査で記録された野々海池湿原の植物相は「植物研究雑誌」(1953) に両氏によって報告された。貯水池になる前で高層湿原を形成しており、本州では 3 ケ所目となるチシマウスバスマレ *Viola hultenii* W.Becker を記録している。また、水島氏はこのとき見られたコシジタビラコ *Trigonotis brevipes* (Maxim.) Maxim. var. *coronata* (Ohwi) Ohwi の分類について、野外植物研究会会誌「野草」(1954) 上で検討している。

この調査は、1956 年に水島氏と横内氏によって「下水内郡植物誌」としてまとめられており、水島氏が清水建美氏(1932-2014)へ謹呈した同書が、現在、長野県環境保全研究所の「清水建美蔵書」に収められている(写真 2)。なお、下水内郡教育会による調査は 1961 年まで続いており、この調査に関連して、以下の植物が水島氏と横内氏によって発見、命名されている。1956 年、ウラジロシナノキ *Tilia japonica* Simonk. f. *glaucescens* Mizushima* 下水内郡水内村(現栄村)、1957 年、

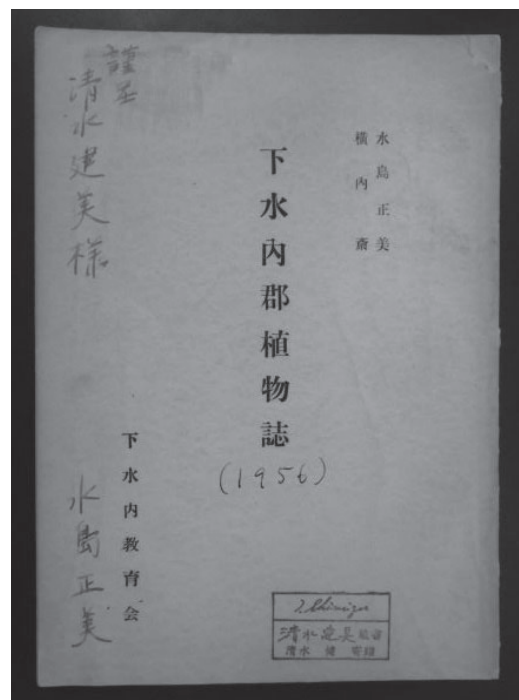


写真 2. 水島正美氏が清水建美氏へ謹呈した「下水内郡植物誌」。提供 長野県環境保全研究所

オオケイタドリ(ウラゲオオイトドリ、アイイトドリ) *Reynoutria* × *mizushima* Yokouchi ex T.Shimizu (オオイトドリ×ケイタドリ) 飯山市滝の腋、1961 年、コシジドコロ *Dioscorea septemloba* Thunb. var. *platyphylla* M.Mizush. ex T.Shimizu 下水内郡栄村和山、オクノケウスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb. var. *lasiocarpum* Koidz. f. *leiocarpum* Mizushima* (マルバカクミノスノキの多毛品、果実も有毛) 下水内郡水内村森、ウスユキスノキ *Vaccinium smallii* A.Gray f. *giaucinum* Mizushima* (オオバスノキの葉裏が灰白色の品種) 下水内郡。また 1959 年ごろに野々海池で、ツルタチツボスマレ *Viola grypoceras* A.Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi を水島氏や横内氏、下水内郡の植物委員が県内で初見しているが、この地が貯水池となって以降、絶えている。

水島氏は 1958 年 8 月に発行された藤沢正平著「志賀高原の植物」の校閲と、これに関連した標本の同定を行っている。しかしこのときはまだ下高井郡山ノ内町の志賀高原を訪れたことがなかったので、おそらく横内氏や下水内郡教育会の会員を通じての依頼だったと思われる。氏が実際に志賀高原を訪れたのは、この年の 8 月中旬に野外植物研究会による特別採集会が 1 泊 2 日で開催された際であり、悪天候の中、岩菅山を登っている。また、同月下旬には同地で 1 週間の調査を行っている。そしてこれらの結果の一部を「野草」(1959-61) に「『志

賀高原の植物』について」と題して3回連載し(連載のタイトルが、－(1)、－(2)、－(2)と、(2)が2つあることに注意)、同著の目録を訂正・補足している。なお、ここで氏はヒメハナワラビ *Botrychium lunaria* (L.) Sw. を初採取したと記している。また、同じ下高井郡内では、1961年に木島平村のカヤの平で、オオバタチツボスミレ *Viola langsdorfii* Fisch. ex DC. subsp. *sachalinensis* W.Becker を横内氏らと県内で初見している。

以上の地域以外では、1957年に大町市中綱湖で、シロオオバコ *Plantago asiatica* L. f. *ochranthera* M.Mizush. を発見・命名している。また、1959年ごろ北安曇郡親海湿原でホロムイソウ *Scheuchzeria palustris* L. を横内氏らとともに県内で初見している。1960年9月には、横内氏、浜 栄助氏(1925-1996)らとともに美ヶ原を、1964年5月には同じく横内氏、浜氏らと下諏訪～東俣～霧ヶ峰を訪れ、採集を行っている。このとき東俣ではフギレミヤマスミレ *Viola eizanensis* Makino × *V. selkirkii* Pursh ex Goldie (エイザンスミレ×ミヤマスミレ)を記録している。さらに1965年9月には、県外ではあるが横内氏とともに新潟県糸魚川市蒲原温泉で、シダレシナノキ *Tilia japonica* (Miq.) Simonk. f. *pendula* Mizushima* を発見・命名している。

次に、県内で発見され、水島氏が命名した植物の分類群を以下にあげる(○内は発見者)。未発表の裸名が多く、網羅されていないことをご容赦願いたい。

ミカドススキ *Miscanthus sinensis* Andersson f. *fastigiatus* Mizushima* 1964年、更埴市八幡大池(横内斎)、ムラサキオオエノコロ *Setaria* × *pyncocoma* (Henrard) Nakai f. *purpurascens* (Honda) Mizushima* 1956年、下水内郡栄村(横内)、オンタケイチゲ *Anemone narcissiflora* L. var. *nuiipponica* Tamura f. *sempilena* Mizushima* 1968年、御嶽(奥原弘人)、ウスベニトリアシショウマ *Astilbe thunbergii* Miq. var. *congesta* H.Boissieu f. *rosipetala* Mizushima* 1966年、更科郡聖山(峯村まさ)、シロバナハイメドハギ *Lespedeza serpens* Nakai f. *albiflora* Mizushima* 1965年、北安曇郡小谷村(横内)、ミカドメドハギ(ハイメドハギとネコハギの推定雑種) *Lespedeza* × *hybrida* Mizushima* 1964年、更埴市八幡大池(横内)、クビキダイコンソウ *Geum japonicum* Thunb. f. *yokouchii* Mizushima* 1956年、新潟県中頸城郡牧村原・下水内郡栄村(横内)、トガクシズミ *Malus sieboldii*

Regel f. *sanguinolenta* Mizushima* 1965年、上水内郡戸隠村(横内ら)、シダレウワミズザクラ *Padus grayana* Maxim. f. *pendula* Mizushima* 1961年、南安曇郡穂高町(横内)、ノリクラナナカマド *Sorbus* × *commixloides* Mizushima* 1961年、南安曇郡乗鞍岳(横内)、シロバナエゾノタチツボスミレ *Viola acuminata* Ledeb. f. *leucantha* Mizushima* 1961年東筑摩郡四賀村(横内)、シラユキスミレ *Viola verecunda* A.Gray f. *candidissima* M.Mizush. ex E.Hama et Nackej. 1960年、諏訪市(浜栄助)、シロバナグンナイフウロ *Geranium eriostemon* Fisch. var. *reinii* Maxim. f. *alba* Mizushima* 1967年、小県郡菅平高原(横内ら)、トゲナシイヌザンショウ *Fagara mantchurica* Honda f. *inermis* Mizushima* 1957年、下水内郡水内村(横内)、キクザキタカネミミナグサ *Cerastium rubescens* Mattf. var. *koreanum* (Nakai) E.Miki f. *tetraschistum* M.Mizush. 1908年、北安曇郡白馬岳(牧野富太郎)、シロガネセンノウ *Lychnis miqueliana* Rohrb. f. *argyrata* M.Mizush. 1954年、軽井沢町離山(佐藤邦雄)、ミユキヤマガキ(ヤマガキの枝垂れ型) *Diospyros kaki* Thunb. var. *sylvestris* Makino f. *nana* Mizushima* 1965年、更埴市金毘羅山(横内)、ケナシシロシャクヤク(ケナシシロヤマシャクヤク) *Paeonia obovata* Maxim. f. *albiflora* M.Mizush. ex T.Shimizu 木曽郡檜川村(奥原弘人)、ニシノシャクナゲ(フナシオオシャクナゲ) *Rhododendron metternichii* Sieb. et Zucc. var. *honcoense* Nakai f. *apunctatum* Mizushima* 1928年、木曽郡開田村(横内・小泉秀雄)、アイダヤマツツジ *Rhododendron kaempferi* Planch. f. *stenolobum* Mizushima* 1948年、東筑摩郡四賀村(横内)、ナギソミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* D.Don ex G.Don f. *trichostylum* M.Mizush. 1956年、西筑摩郡山口村(奥原)、ホシザキヒルガオ *Calystegia japonica* Choisy f. *asterantha* Mizushima* 1968年、長野市若槻(横内文人)、ベニバナラショウモンカズラ(アカバナラショウモンカズラ) *Meehania urticifolia* Makino f. *purpurina* Mizushima* 木曽地方(奥原)、シロバナクガイソウ *Veronicastrum sibiricum* Pennell var. *japonicum* H.Hara f. *leucanthum* Mizushima* 1965年、下水内郡苗場山(横内ら)、シロバナタテヤマウツボ *Prunella prunelliformis* (Maxim.) Makino f. *albiflora* M.Mizush. 1955年、北安曇郡北城村八方山(鈴木健)、アズマヤコゴメグサ *Euphrasia insignis* Wettst. f. *porphyrantha* Mizushima* 1966年、小県郡菅平高原四阿山

(横内ら)、シロバナヨツバシオガマ *Pedicularis chamissonis* Steven var. *japonica* Maxim. f. *pallida* Mizushima* 1961 年、南安曇郡乗鞍岳(横内ら)、シロバナオニシオガマ *Pedicularis nipponica* Makino f. *alba* M.Mizush. et Yokouchi 1954 年、下水内郡野々海(横内)、ナカブサホタルブクロ *Campanula punctata* Lam. subsp. *hondoensis* Kitam. f. *argustifolia* Mizushima* 1961 年、南安曇郡穂高町中房温泉(横内)、トガクシサワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb. f. *sabbicolor* Mizushima* 1963 年、上水内郡戸隠高原(横内)、シロバナエゾノコンギク *Aster ageratoides* Turcz. subsp. *ovatus* (Franch. et Sav.) Kitam. var. *yezoensis* Kitam. et H.Hara f. *candidus* M.Mizush. 1958 年、更科郡大岡村(峯村)、ナメラコウゾリナ(ケナシコウゾリナ) *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylov f. *laevicaulis* M.Mizush. ex T.Shimizu 1963 年、岡谷市川岸(横内ら)、シロバナタカネヒゴタイ *Saussurea triptera* Maxim. f. *albiminator* Mizushima* 1968 年、南佐久郡金峯山(横内)、シロナベナ *Dipsacus japonicus* Miq. f. *leucocephala* Mizushima* 1963 年、更科郡大岡村(横内文人)、チクマゼリ *Oenanthe javanica* A.P. de Candolle f. *rosipetala* Mizushima* 1971 年、東筑摩郡四賀村(横内)。

水島氏はこのように、植物分類学者として長野県の植物相の解明に大きな功績を残されている。それは、氏が地方の在野の研究者との交流を大切にされていたことを示すものでもある。氏は大学予科生のときにすでにアマチュアの同好会である野外植物研究会(初代会長、檜山庫三(1905-1967))に所属しており、会誌「野草」に多くの原稿を寄せている。また、雑誌「科学」(1940)掲載の「アマチュア・ボタニストの育成」の記事には、専門家はアマチュアに知識を提供し、一部でもその要請に応え、アマチュアの層を厚くすることによって、専門家が得られる資料の質も向上するという、両者の間で自然と生まれる give and take の関係を理想とすることを記している。この時代よりも現在は、両者の間の垣根を意識せずにいられるのは、水島氏をはじめとする先人達が、専門家とアマチュアとの間の橋渡しとなり、植物学の普及に努められたおかげであることを感謝したい。

なお、日本蘚苔類学会第9代会長を務めた水島うらら氏(1927-2010)は、水島氏の妻であり、大学学部4年か大学院生であった水島氏と出会い、原寛夫妻の媒酌で婚姻を結ばれている。二人の野外

調査の記録は「野草」に掲載されており、上述した野外植物研究会主催の1958年の志賀高原での採集行にも同行している。水島氏が1972年に癌のため47歳の若さで亡くなられた後、長野県植物研究会に入会しており、会誌第13号(1980年5月発行)から39号(2006年6月発行)まで名簿に名前が掲載されている。

本稿をまとめるにあたり、以下の資料と水島氏の業績を参考にした。また、横内文人氏と長野県環境保全研究所からは貴重なお写真をご提供いただき、大塚孝一氏からは適切なご意見をいただいたことに、深く感謝を申し上げる。

- 大場秀章編(2007) 植物文化人物事典. 日外アソシエーツ
- 里見信生(1972) 故 水島正美博士を悼む. 北陸の植物. 20(3): 82-83
- 清沢晴親(1981) 横内斎さんを想う. 長野県植物研究会誌. 14: 63-66
- 清水建美監修(1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社
- 高橋 勸(2000) 飯山地方の一世紀にわたる植物研究の概要. 高井. 132: 37-42
- 出口博則(2012) 水島うらら博士. 植物研究雑誌. 87(2): 143-145
- 長野県植物誌資料集作成委員会(2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集(普及版)
- 浜 栄助(1973) スミレ旅日記-雑種を追って. 大町山岳博物館編, 北アルプス博物誌II 植物・地学. 信濃路: 46-53
- 浜 栄助(2002) はらから(遺稿集). 浜えつ子
- 原 寛(1972) 水島正美博士. 植物研究雑誌. 47(12): 377-378
- 横内 斎(1980) 山野巡歴-信州の植物と私-. 信濃路
- 横内 斎(1983) 信濃植物誌. 信濃植物誌刊行会
- 横内 斎(1985) 草木漫筆 横内斎著作集1. 銀河書房
- 米倉浩司・梶田 忠(2007-) 植物和名・学名インデックス Ylist, <http://ylist.info/> (2023年1月24日閲覧)

水島正美氏 業績

水島氏が単著の場合はお名前を省略した。共著の場合は著者を末尾に記した。

【著書・編書】

共著 1954 尾瀬地方の高等植物フロア, 尾瀬ヶ原総合学術調査団編, 尾瀬ヶ原: 尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告. 日本学術振興会: 401-479, 原寛・水島正美

共著 1956 下水内郡植物誌, 下水内教育会. 水島正美・横内斎

共著 1958 下水内郡植物誌補遺(第二), 下水内教育会. 水島正美・横内斎

著 1958 木曾御嶽高等植物目録, 御嶽駒ヶ嶽総合調査会編, 御嶽研究 自然編. 木曾教育会: 507-567

共編 1964 原色植物百科図鑑, 集英社. 本田正次・水島正美・鈴木重隆

共編 1966 日本百科大事典別冊第 5 原色植物図鑑, 小学館. 本田正次・水島正美

共編 1967 原色植物百科図鑑, 小学館. 本田正次・水島正美

【校閲・監修】

校閲 1958 志賀高原の植物, 志賀高原研究会. 藤沢正平著

監修 1971 カラー版 おいしい山菜図鑑, 株式会社千趣会. クック編集部編

【論文等】

「植物研究雑誌」株式会社ツムラ

1951 サワハコベと其の一群について. 26(1): 1-8

1951 ムラサキ科の移入新品. 26(10): 297-298

1952 日本植物寸評 (1). 27(5): 143-147

1953 カンチャチハコベに就いて. 28(2): 44-50

1953 信州野々海池湿原を見る. 28(11): 348-352.
水島正美・横内斎

1954 アライトツメクサ本州に現る. 29(2): 57-58

1954 タチネコノメサウ奥武蔵にあり. 29(4): 106

1954 再びワルタビラコに就いて. 29(6): 189

1954 ウマゴヤシ属の新来品. 29(11): 335

1955 白花二題. 30(3): 94-95

1955 オテンツキ学名の出典. 30(11): 339

1956 ヤマゼリの生存期間. 31(1): 21

1956 ヒメカイウの産地. 31(3): 76

1956 アカハナワラビへの疑問. 31(7): 220-222

1956 イタヤカエデとエンコウカエデ. 31(9): 285-286

1957 ハンノキ属の種間雑種 (日本植物寸評 2). 32(1): 1-5

1957 *Drymaria cordata* Willd. の再検討 (日本植物

寸評 3). 32(3): 69-81

1957 東亜産ハコベ属の記 (日本植物寸評 4). 32(8): 245-253

1958 クロミウスノキとは何か? . 33(1): 22-23

1958 新品種 3 題. 33(4): 128

1958 オオバナボントクタデ. 33(5): 145

1958 コミヤマキンポウゲの発表に関して. 33(11): 352

1959 オオマツヨイグサの萼の色. 34(5): 152

1959 エゾノコンギクと其の白花品. 34(5): 158-159

1959 ナガサワハコベ追記. 34(8): 238

1959 ウロコナズナ. 34(9): 283

1959 オクエゾサイシン. 34(12): 377-378

1960 アキノエノコログサについて. 35(2): 61-63

1960 日本及び近隣地域のツメクサ属 1 (日本植物寸評 5). 35(3): 77-82

1960 日本及び近隣地域のツメクサ属 (2) (日本植物寸評 6). 35(4): 103-107

1960 ナデシコ科の新外来品. 35(5): 157

1960 ツバメオモトの果色. 35(6): 179

1960 日本及び近隣地域のツメクサ属 (3) (日本植物寸評 7). 35(7): 193-200

1960 日本及び近隣地域のツメクサ属 (4) (日本植物寸評 8). 35(9): 257-260

1960 日本及び近隣地域のツメクサ属 (5) (日本植物寸評 9). 35(11): 335-340

1961 ルリハッカ、チクマハッカ及びクシロワチガイの分布について. 36(9): 316-319. 菊池政雄・水島正美

1962 チョウセンホソバツメクサ. 37(8): 242

1963 シッキムヒマラヤ産ナデシコ科植物の記 (日本植物寸評 10). 38(5): 149-154

1963 史前帰化植物に対する欧語. 38(10): 308

1965 エゾノミツモトソウ追記. 40(1): 18

1965 日本産ハコベ属の概要 (日本植物寸評 11). 40(3): 90-96

1965 高等植物分布資料 (37). チャボガヤ・ノッポロガンクビソウ. 40(6): 185

1965 生薬原植物名の誤用 1 件. 40(7): 224

1965 日本産ハコベ属の概要 (2) (日本植物寸評 12). 40(8): 250-256

1965 ウスバシナノキの正体. 40(9): 285-286

1965 [新 刊] Heyn. C. C.: The Annual Species of *Medicago*. 40(9): 288

1965 高等植物分布資料 (42). ホロムイソウ.

- 40(12): 377
 1966 高等植物分布資料 (43). ヤツガタケムグラ . 41(2): 48
 1966 高等植物分布資料 (44). ヤチラン・コホタルイ・ヒメアブラススキ . 41(3): 91-92. 水島正美・松沢篤郎
 1966 ヒマラヤ産ウリ科及びナデシコ科植物の新名 (日本植物寸評 14). 41(9): 259-260
 1967 コカナダモの学名 . 42(2): 48
 1967 イチョウランの体制 . 42(3): 73
 1967 ホザキイチヨウラン . 42(5): 159-160
 1967 オオバコの葯の色 . 42(6): 181
 1967 マンテマモドキ . 42(8): 229
 1967 ヒレアザミについて . 42(9): 276-277
 1967 檜山庫三氏の逝去 . 42(10): 316
 1967 ホザキイチヨウランの記事に関する訂正 . 42(11): 343
 1968 ナデシコ科ハコベ亜科植物短評 (日本植物寸評 15). 43(2): 49-56
 1968 ゴウシュウアリタソウの学名 . 43(3): 80
 1968 サワハコベと *Stellaria wushanensis* Willms. var. *trientaloides* Handa. -Mazz.. 43(10. 11): 413-419
 1968 マルバノキ (ベニマンサク) の花 . 43(12): 522-524
 1969 ケナシヒメムカシヨモギ台湾に分布 . 44(6): 169
 1969 フウセンダマノキの学名 . 44(11): 346
 1969 ヌカボの学名に一言 . 44(12): 372
 1970 出雲の“オオバボダイジュ” . 45(2): 44
 1970 ヌカボの学名についての訂正 . 45(4): 126-127
 1970 再びムラサキツユクサの開花について . 45(19): 320
 1971 ハルジョオンの栄養繁殖について . 46(11): 345-346
 1972 コモチオオアワガエリ (新称) について . 47(2): 43
 1972 ニセツキヌキサコ (新称) について . 47(2): 53
 1973 青森県産ビランジ属植物の 1 新種 . 48(3): 65-67
 「野草」野外植物研究会 (号数等が不統一)
 1944 忍路臨海実験所附近採集記 . 昭和 19 年 12 月 : 1-11
 1945 札幌附近産ミツタマソウ属植物略記 . 昭和 20 年 1 月 : 1-4
 1945 札幌附近産羊歯植物検索表 . 昭和 20 年 2,3 月 : 2-8,17
 1946 ニホイタチツボスミレその他 . 昭和 21 年 (1): 3-4
 1946 関戸より高幡へ . 昭和 21 年 (2): 12-14
 1946 シマスズメノヒエについて . 昭和 21 年 (2): 16-18
 1946 シマスズメノヒエについて . 昭和 21 年 (3): 1-2
 1946 ドクダミの子房は何室か? . 昭和 21 年 (3): 5
 1946 東京市内産イラクサ科植物検索表 . 昭和 21 年 (3): 40-45
 1946 ミヅとアオミヅ . 昭和 21 年 (4): 2-3
 1946 オニキノデ . 昭和 21 年 (4): 5-6
 1946 トマトの属名 . 昭和 21 年 (4): 9-10
 1947 アカミノイヌホオヅキ . 昭和 22 年 (5): 5-8
 1947 ヒメハギとホソバヒメハギ . 昭和 22 年 (7): 4-6
 1947 フッキソウ及び其の果実に就て . 昭和 22 年 (8): 7-8
 1947 フッキソウの果実訂正 . 昭和 22 年 (8): 8-9
 1947 キノコヅチとヒナタキノコヅチ . 昭和 22 年 (9): 23-24
 1947 東京市内産ヒメジョオン属植物検索表 . 昭和 22 年 (10): 9-11
 1947 エゾノキツネアザミ . 昭和 22 年 (13): 6-7
 1947 オオウバユリ寸記 . 昭和 22 年 (14): 9-10
 1947 クシゲメヒシバ . 昭和 22 年 (15): 8-9
 1947 アキノタムラソウ . 昭和 22 年 (16): 7-10
 1948 東京近郊産ヤブタバコ属 . 14(1): 3
 1948 東京近郊産ヤブタバコ属 (II). 14(2): 5-6
 1948 アキノタムラソウ追記 . 14(3): 9
 1948 サクラの一品 . 14(4): 13-14
 1948 ノミノフスマ (1). 14(5): 17-18
 1948 新倉スケッチ . 14(6): 21-22
 1948 奥多摩のハコベ属に就いて . 14(7): 29-31
 1948 高尾北面採集行 . 14(8): 2-4. 大久保真理子・水島正美
 1948 越後小黒沢採集行 . 14(9): 1-5
 1948 ミツバフウロとカハチハギ, ニッコウシラハギ . 14(10): 1-2
 1948 東京のノギク類 . 14(12): 1-4
 1949 東京のノギク類 . 15(1): 1-5
 1949 展覧山附近採集行 . 15(4): 2-3
 1949 清瀬採集 . 15(4): 4-5

- 1949 武蔵国産シャクナゲ属 . 15(5): 1-4
 1949 南平—高幡採集 . 15(6): 7-8
 1949 武蔵国産ガマズミ属 . 15(7): 1-2
 1949 武蔵国産ガマズミ属 (2). 15(8): 2-3
 1949 箱根採集行 . 15(9): 5-6
 1950 東京のカヤツリグサ属 . 16(11): 3-5
 1950 上総鋸山採集要略 . 16(12): 4-5
 1951 師走の伊豆白金山 17(2): 7-9
 1951 オウイヌフグリの白花品 17(6): 3-4
 1951 関戸附近採集記 . 17(6): 5-6. 水島正美・水島
 うらら
 1952 植物記載述語の略解 (1). 18(1): 5-8
 1952 植物記載述語の略解 (2). 18(2): 3-5
 1952 尾瀬地方高等植物仮目録訂補 . 18(2): 6-7
 1952 四月の高水三山採集記 . 18(4): 3-6. 水島正美・
 水島うらら
 1954 高等植物の科の和名表 (1). 20(5): 3-5
 1954 高等植物の科の和名表 (2). 20(6): 3-4
 1954 ミズタビラコとコシジタビラコ . 20(10): 2-4
 1954 大宮附近を歩む . 20(11): 9-10
 1955 高等植物の科の和名表 (3). 20(6): 3-4
 1955 妙義山の植物訂補 . 21(9): 3-4
 1957 セイヨウヒルガオ追記 . 23(6): 4-5
 1957 ヤブタビラコの果実の脈数 . 23(7): 6
 1958 石老山に登る . 24(6): 7-8
 1959 朗報 . 25(7): 11
 1959 「志賀高原の植物」について (1). 25(11): 3-5
 1960 「志賀高原の植物」について (2). 26(1): 3-4
 1960 本誌の最近号に拾う . 26(2): 3-4
 1961 「志賀高原の植物」について (2). 27(11): 98
 1967 檜山先生の業績—先生と牧野標本館 . 33(7).
 40-41
 1967 秋の天租山へ . 33(11). 83-85
 「採集と飼育」日本科学協会
 1944 札幌圓山植物小記 (1). 6(4): 109
 1944 札幌圓山植物小記 (2) エゾエンゴサクの変化 .
 6(7): 182-184
 「地学雑誌」東京地学協会
 1951 伊豆大島の植物概観 . 60(3): 154-156. 原寛・
 水島正美
 「北陸の植物」北陸の植物の会
 1953 北陸植物雑録 [1]. 2(2): 28-29
 1956 伊豆青ヶ島の植物方言名 . 5(2): 45-46
 1967 檜山庫三先生を悼む . 15(4): 103-104
 「資源科学研究所彙報」資源科学研究所
 1954 台湾産メギ類について . 35: 28-32
 1955 青ヶ島の高等植物 . 38: 106-126
 1956 田名部周辺泥炭地の高等植物相 . 40: 96-109
 1957 下北半島植物目録追補 (I). 43/44: 53-54
 「植物分類, 地理」植物分類地理学会
 1955 中尾氏採集ネパール産新植物 . 16(2): 42-43
 1962 ノミノツヅリについて . 20(1): 191-194
 「科学朝日」
 1955 青ヶ島写真ノート . 15(2): 14-17. 埴原和郎・
 水島正美
 「国民の科学」民主主義科学者協会
 1955 富士山の植物・動物 . 5: 49-57
 「文化財の保護」東京都教育委員会社会教育部
 1970 武蔵野の自然 . 2:
 「科学」岩波書店
 1965 アマチュア・ボタニストの育成 . 35(1): 52-
 53